



色川の棚田

令和5年度 棚田等保全対策事業 人材育成検討会

第28回 全国棚田（千枚田） サミットin那智勝浦町

報告



小阪の棚田

水土里ネット鹿児島 地域支援課

開催日：令和5年11月18日（土）～11月19日（日）

開催地：和歌山県 那智勝浦町

会 場：

メイン会場	那智勝浦町体育文化会館
分科会	ホテル浦島 法王・亀宝 サンライズ勝浦 みくまの ホテルなぎさや 三熊野



参加人数： 447人 うち和歌山県内 83人



和歌山県PRキャラクター「きいちゃん」

テーマ：

「棚田を囲む暮らしを共に
～ここにしかない縁がある 来たれ耕す人～」

第28回 全国棚田(千枚田) サミット in 那智勝浦町

棚田を囲む暮らしと共に ～ここにしかない緑がある 来たれ耕す人～

2023年 **11月18日19日**
那智勝浦町体育文化会館

第28回全国棚田(千枚田)サミット
那智勝浦町実行委員会 事務局 那智勝浦町 764-5332
和歌山県那智勝浦町那智高等学校 770-1
761-0770(TEL) FAX 770-1746
E-mail: natsunokami@natsunokami.jp
http://natsunokami-summit.konowaka.jp/

第28回 全国棚田(千枚田) サミット in 那智勝浦町

18日 参加費・資料代 3,000円
10:00～12:30 開会式典

8:30 受付 / 9:00 開会

9:30 オープニングアトラクション

10:00 開会式典

10:30 事例発表
テーマ「想像力がつなく棚田、私たちは今」

11:00 基調講演 (90分)
有田 昌一郎氏
テーマ「次世代に引き継ぐための地域の体づくり」

12:30 終了

14:30～16:30 分科会

① 関係人口の承継
有田 昌一郎氏
② 集落空間の継承
佐久間 康彦氏
③ 災害教訓の承継と継承
吉田 昌彦氏
④ 地域振興下の棚田保全
吉田 昌彦氏

19日
8:30～11:00 現地見学会
和歌山県紀南地方で唯一の
つなく棚田産産「色川の棚田群」
1,000円

8:30～11:00 観光エクスカーション
世界遺産 那智山青岸寺、
那智の滝を楽しむコース 1,500円

吉野熊野国立公園・ジオサイト井天島の散策と
遊覧船による絶景を楽しむコース 2,000円

生まぐろの水揚げ日本一を誇る勝浦漁港
周辺で食を楽しむコース 1,000円

11:30～12:30 閉会式典

和歌山県 那智勝浦町



和歌山県那智勝浦町

紀伊半島の南に位置する「熊野古道」、「生まぐろ」、「温泉」のまち。

日本三大名瀑の一つである「那智の滝」や温泉を始めとした観光、生まぐろなどの漁業で栄える一方、米を中心とした農業も行われている。

【オープニングアトラクション】



社会福祉法人若葉福祉会 わかば保育園の園児による鼓笛隊の演奏

【挨拶】

- 主催者あいさつ 全国棚田（千枚田）連絡協議会
会長 福井 正明 氏（滋賀県高島市長）
- 開催地あいさつ
和歌山県那智勝浦町長 堀 順一郎 氏
- 開催県あいさつ
和歌山県副知事 下 宏 氏



事例発表

◇発表者：棚田を守ろう会 外山 麻子 氏

◇テーマ：「想像力がつなく棚田、私たちは今」

◇内 容：

那智勝浦町色川地区の歴史に関する説明と、所属する「棚田を守ろう会」のこれまでの活動を振り返りながら事例発表が行われました。

農業をするには条件が良いとは言えない地域で棚田を耕し生活し続けることの意味について問題を提起し、棚田地域の重要性を発表しました。

横浜育ち。2007年に那智勝浦町色川に移住し、現在は家族とともに有機農業を核とした自給的な暮らしを実践している。



色川地区は山々に囲まれ広大な森林を有し、温暖で雨が多い地域。かつては200haあった棚田は人口の減少に伴い、耕作放棄地が増加・・・

棚田が荒れたままではもったいない・・・

↓
地元の有志により30数年耕作していなかった棚田を復田

↓
米作りイベントを開始

↓
「棚田を守ろう会」発足

棚田を守るためには・・・

移住者を含め約20名が年4回の米作り体験イベントで都市圏の人たちと交流している。人手不足などの課題にも直面しているが、色川の棚田を守っているのは、自給用の耕作がほとんどのため、自給のために耕す人が十分にいれば、棚田はおのずと守られる。そこにある資源を、この先も残しておくことは意義がある。

棚田を守ろう会

農業体験イベントやボランティアを募集し近隣地域や都市部の協力のもと、棚田の維持管理を行っている。

基調講演

◇発表者：島根県中山間地域研究センター・研究企画監 有田 昭一郎 氏

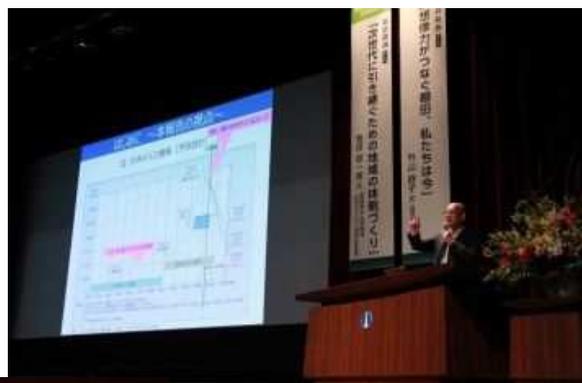
◇テーマ：「次世代に引き継ぐための地域の体制づくり」

◇内 容：

人口の減少を食い止めることは難しく、また、これから人口が増加していくことも望めない現状にあります。

少ない人口で集落機能をどのように維持していくのかが大きな課題です。

また、集落機能維持のためには若い世代の活躍が必要であり、次世代に引き継ぐための地域体制づくりについて講演がされました。



熊本県出身。2003年から島根県にIターンし現職。主に地域運営の仕組みづくり、ソーシャルビジネス、若者定住と必要な生活費、少子化対策、地域経済循環を研究している。

人口減少の局面において、農業・農山村をどう支えていくか
担い手＝住民 が暮らし続けるためには、どんな地域の体制が必要か？

これから、たとえ定住対策が成功したとしても、ほとんどの地域では人口や世帯はより縮小し、担い手も減少。
・・・⇒より少ない人口で安心して暮らすことのできる体制づくり（地域運営組織づくり）は、必ず取り組まなければならないこと。

地域運営組織づくりは、定住条件づくり
「年をとっても安心して暮らしていける地域」＝「若者が安心して暮らし続けられる地域」

体制づくりでは、地域の若い世代のやりづらさが解消され、地域が若い世代が参画しやすい場として開かれることが不可欠

実現の要は・・

仕掛け役となるスタッフ体制づくり



地域を若い世代にとって安心して暮らし、関わりやすい場としていくことが、次世代に農村を、農村の景観、棚田の景観を継承することに繋がると考えます。

第1分科会

令和5年11月18日（土） 14:30～16:30 ホテル浦島 3F鳳凰

◇テーマ：「関係人口の承継」

◇コーディネーター：和歌山大学観光学部 教授 八島 雄士 氏

◇パネリスト：和歌山大学観光学部教授 大浦 由実 氏
棚田を守ろう会 松木 繁明 氏
らくだ舎代表 千葉 智史 氏
紀美野町まちづくり課 中西 円香 氏
色川クラフトビールプロジェクト 共同代表 藤本 多敬 氏

今までの価値観では生き残れないという現状を共有し話し合うことが必要であるとの意見がありました。

事務局業務の有償化をすることが必要、耕作者を増やすプログラムが必要であるとの見解となりました。



第2分科会

令和5年11月18日（土） 14:30～16:30 ホテル浦島 4F亀宝

◇テーマ：「集落空間の継承」

◇コーディネーター：和歌山大学システム工学部 准教授 佐久間 康富 氏

◇パネリスト：和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 食農総合研究教育センター
センター長・教授 岸上 光克 氏
色川地域振興推進委員会 会長 新宅 慎一 氏

副会長 浦 勝良 氏
副会長 原 和男 氏
定住推進班長 大久保 通 氏
役員 大東 年吉 氏
事務局 大西 俊介 氏



関係人口及び交流人口を担い手として期待するが持続可能にすることが大切。

地域で大切にしてきたことを伝え移住者を受け入れること、それが地域らしさに繋がるとの見解になりました。

第3分科会

令和5年11月18日（土） 14:30～16:30 サンライズ勝浦 2Fみくまの

◇テーマ：「災害訓練の承継と継承」

◇コーディネーター：和歌山大学教育学部 教授 此松 昌彦 氏

◇パネリスト：和歌山大学システム工学部 教授 仲島 敦司 氏
土砂災害啓発センター 所長 稲田 健二 氏
棚田を守ろう会 代表 峯 茂喜 氏
田垣内 区長 鳥羽山 誠一 氏

承継（形のないものを引き継ぐ“棚田の機能”）と継承（具体的な災害教訓）を引き継ぐ話し合いの場となりました。

棚田の機能として土石流を止める研究について、また具体例として紀伊半島大洪水の経験や調査について発表しました。

棚田の機能や自分たちの住んでいる場所を知ること、災害に備えることができるという見解になりました。



特別分科会

令和5年11月18日（土） 14:30～16:30 ホテル なぎさや「三熊野」

◇テーマ：「地域振興下の棚田保全」

◇コーディネーター：棚田ネットワーク名誉代表 中島 峰広 氏

◇パネリスト：元農林水産省農村振興局地域振興課長 松本 雅夫 氏
川代柿木台棚田 川代集落代表 庄司 祐輔 氏
十日市市 地域おこし協力隊 星 裕方 氏

棚田の保全活動を続けて行くには、活動を企業化する必要がある。

保全団体の作業員に給料という形でお金を渡している団体は数少ない。

棚田オーナー制度や様々な工夫をして地域振興下の棚田保全を継続していくことについて話し合いました。



現地見学会

令和5年11月19日（日） 8:30～11:00

◇和歌山県紀南地方で唯一のつなぐ棚田遺産「色川の棚田群」
小阪の棚田・色川の棚田の見学（しめ縄作り体験・餅つき）

◇小阪の棚田散策と解説・しめ縄作り体験・餅つきによる地域の皆さんとの交流



☆観光エクスカーション☆ 令和5年11月19日 8:30～11:00

1) 世界遺産コース

熊野那智大社 ⇒ 那智山青岸渡寺

⇒ 那智の滝 (ガイドによる案内)



2) 吉野熊野国立公園・ジオサイト弁天島コース

弁天島お蛇浦海岸 散策 ⇒ 紀の松島観光船



3) 生まぐろの水揚げ日本一を誇る勝浦漁港周辺コース

にぎわい市場見学 ⇒ 補陀洛山寺見学



閉会式 令和5年11月19日 (日) 11:30～12:30

- 各分科会の振り返り報告
- 各分科会コーディネーターから報告

共同宣言

協議会旗の引継

開催地 那智勝浦町長 堀 順一郎 氏
次期開催地 上田市副市長 小相澤 隆幸 氏
次期開催地挨拶 上田市副市長 小相澤 隆幸 氏

お礼の挨拶

那智勝浦町 堀 順一郎 町長

閉会



第29回 全国棚田(千枚田)サミット
In 長野県上田市
令和6年 10月17日(木)～19日(金)



番外編 (会場の様子 など)



お弁当



なぜか鹿児島産のお茶

参加記念品



棚田米 まぐろと地元特産品の醤油 地元農家栽培の生姜の佃煮

棚田の稲を泳ぐまぐろがデザインされた厚手生地のトートバック



有田川様より提供の有田ミカン

